

令和3年度 全国学力・学習状況調査について

(本調査は、全国悉皆調査で第6学年児童を対象に5月に実施されたもの)

1 学力調査に関する結果の概要

【国 語】

- 文章全体の構成や展開を考えたり自分の考えが伝わるように書き方を工夫したりして書く力が身に付いている。
- 文章構成から内容の中心を把握したり文章と図を結び付けて内容を捉えたりするなど文章を読み取る力が身に付いている。
- 条件に合わせて文章を要約する力や、修飾と被修飾語の関係を捉える力をより一層伸ばす必要がある。

【算 数】

- 図形の面積を求める技能を身に付けるとともに、複合図形の構成要素に着目して面積の求め方を考えたりするなど図形領域の理解がよくできている。
- グラフから必要な情報を読み取ったり、活用したりすることができている。
- 必要な式と数を分かりやすい言葉でつないで説明する力をより一層伸ばす必要がある。

2 児童（生徒）質問紙に関する結果の概要

- 将来に夢をもち、何事もあきらめずに取り組もうとする気持ちをもつことができている。
- 自分の頑張りを認めたり自分のよさを感じたりするなど、自己肯定感が高い。
- 学校での学習の大切さを理解し、生活の中で役に立つと感じている。
- ICTの活用に意欲的であり、学習の理解に必要であると感じている。
- 日常的に活字に触れたり、読書に親しんだりする習慣が十分身に付いていない。

3 取組についての評価

(1) 教科に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 目的や意図に応じて書く活動を位置付けた授業づくりと自己の成長（伸び）に着目した振り返りの場の設定
- ・ めあてを焦点化するための「問いの工夫」（導入の工夫）のある授業作り
- ・ 5・6年生の算数を中心とした習熟度別学習の実施

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 低学年から、句読点や主述等の正しい表記の仕方や頭括型や尾括型等の文章構成を指導したり、自分の考えを書く活動を授業の中に位置付けたりする。
- ・ 式の根拠を言葉の式や図・数直線を用いて説明する場を日常の学習の中に位置付ける。
- ・ MK型の授業づくり（事前に予習を行い、導入段階で考えを出し合い練り合う授業）を継続する。

(2) 児童（生徒）質問紙の内容に関する取組

① 効果があった取組

- ・ 高学年を中心とした教科担任制の導入
- ・ ICTを活用した授業づくり（校内研修・情報化推進委員会）
- ・ 子どもと地域をつなぐ生活科や総合的な学習の時間の構築

② 今後の学力向上に向けた取組

- ・ 読書時間の確保と読書習慣の確立を行う。（5時間目の前は読書タイム）
- ・ 何事にも主体的に取り組む力を伸ばすために児童会や高学年を中心とした全校での取り組みを位置付ける。（SDGsなど）